

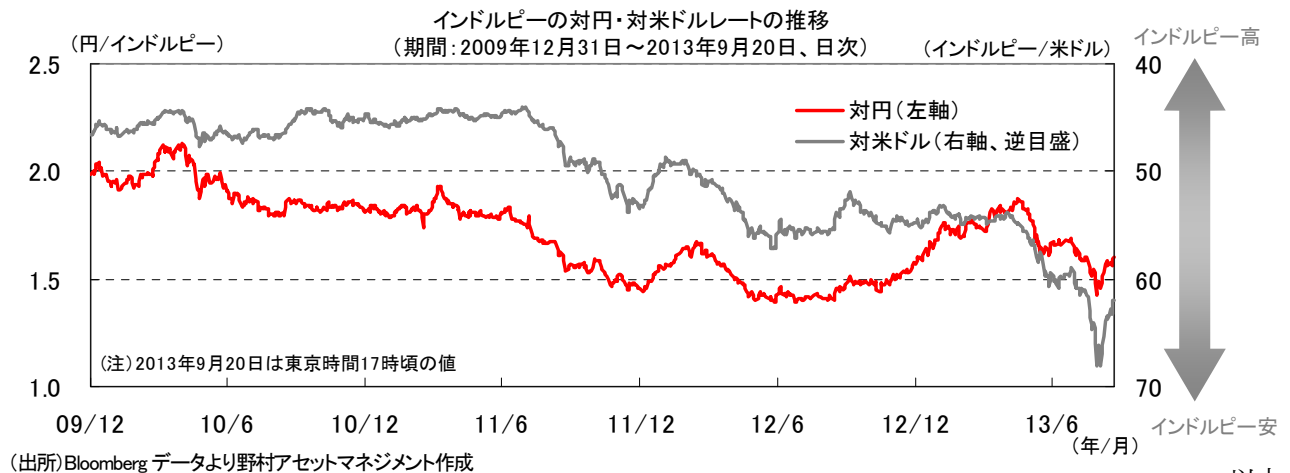
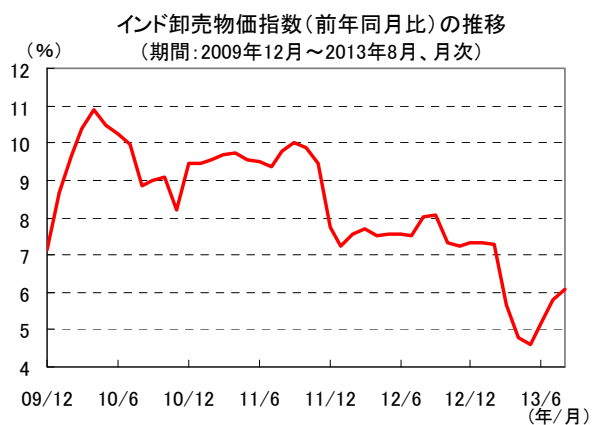
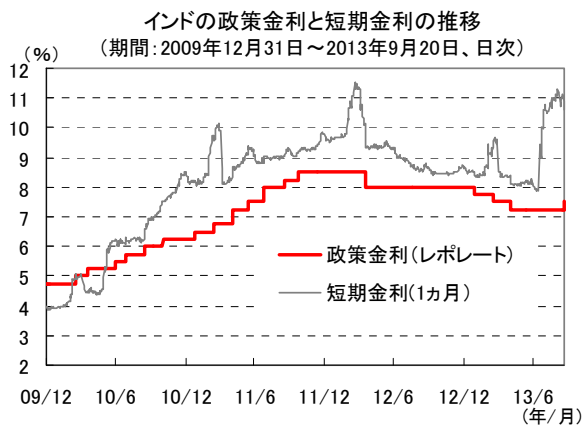
### 9月20日発表のインドの政策金利の引き上げについて

インド準備銀行(中央銀行)は9月20日に開催された金融政策決定会合で、市場予想に反し、政策金利であるレポレート(中央銀行が市中銀行に資金供給を行なう際の金利)を0.25%引き上げ、年率7.50%とすることを決定しました。2011年10月以来、約1年11ヵ月ぶりの利上げとなります。

一方、投機的なインドルピー売りを阻止するために導入してきた流動性引き締め策については、一部緩和することを発表しました。実質的な短期金利の上限水準となるMFS(限界貸出金利)について、これまで2.00%引き上げて10.25%としていましたが、今回0.75%引き下げ9.50%にするほか、市中銀行が同中銀に積み立てる義務がある現預金残高の維持率も引き下げました。

9月4日に就任したラジヤン新総裁は、就任と同時にインドルピー相場を下支えする措置を発表した一方で、国内の景気低迷や多額の経常、財政赤字は構造的な問題ではなく、解決は可能との見方を示していました。米国における量的緩和政策の縮小が一旦見送られ、インドルピーを含む新興国通貨が上昇に転じていることから、金融政策の正常化への第一歩としてMSFを引き下げ一方、インフレ懸念などから政策金利は引き上げたものと見られます。

9月20日の外国為替市場(東京時間17時頃)では、対米ドルで前日比0.2%のインドルピー安、対円で同0.2%のインドルピー高となっています。



以上

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。